2012年6月22日（金）

# グリップ挿入時の注意点
# （NO1 GRIP 43SERIES　48SERIES　50SERIES　に関して）

平素より当社製品のご愛顧、誠にありがとうございます。この度、弊社製品

**NO1　GRIP　50シリーズ**
**48シリーズ**
**43シリーズ**

におきまして、
**「グリップエンド及び、グリップエンドから5センチ下部に至る部分」**が、交換後に動いてしまう現象が生じており、
社内調査をした結果、下記記載の原因と共に、取り付けに関する注意のご案内をさせて頂きます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

弊社製品、NO1　GRIP　50シリーズ/48シリーズ/43シリーズに関しましては、
グリップ内部の内径が、50シリーズは14㎜、そのほかのシリーズは全て13．5㎜となっております。

通常のゴルフシャフトは、細いものでも14．5㎜以上あり、かつシャフトに両面テープを巻きつける為、
グリップ装着時のシャフト径は理論上、約15㎜以上になる計算になります。

しかし、弊社製品が
① 高密度エラストマーという、ラバー（ゴム系）ではない樹脂製品である
② 複数あるエラストマー製品の中でも、非常に柔らかい材質である
ことから、

**A） 下記に定めたグリップ交換時に注意点を守って施工すること**
**B） バット径15㎜以下のゴルフシャフト、またはトルクのかかる大きなクラブ「ドライバーなど」に装着時は**
**下記（次項）のようにエンド部分を2重にして装着すること**

をお勧め致します。その他、ご質問などがございましたら、ご遠慮なく弊社窓口（03-3555-5055）までご連絡ください。

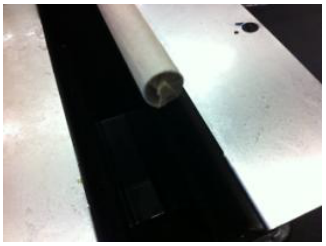
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## A） 交換時の注意点

グリップの挿入前に、必要以上に粘着面に触れてしまうと、手に付着した皮脂などで粘着性が低下し、非圧着箇所を発生する原因となりますのでご注意ください。

ごくまれに、テープ幅20㎜などのテープで、らせん巻きで装着せず、図のような縦一列の往復型で施工する例があります。このような方法ですと、シャフト面に両面テープが巻きついていない箇所がある為、グリップとシャフトの接着面で可動域が生じグリップが動いてしまうケースがあります。隙間を開けずに、らせん巻で装着することをお勧め致します。

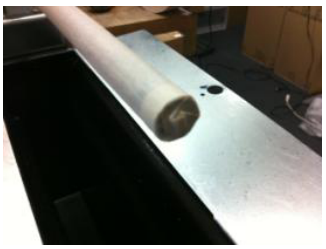
# B） バット径１５㎜以下のゴルフシャフト、
# またはトルクのかかる大きなクラブ「ドライバーなど」に装着時



写真は、テープを1周巻いてある状態のものです。
太目のシャフト（NSなど）ならば、エンドの回転（圧着不足）は
起こりえませんが、細見のシャフト（ダイナミックゴールドなど）や、
ドライバーは以下の写真の通り、エンド側を2周巻いて頂くことで上記のような症状を防止することができます。

両面テープを幅１５ミリほどカットし、エンドキャップ側に巻きつけます。
※グリップエンドの密着力を高める為

シャフトのインナー側に1周目と同じようにたたみこみます。



グリップの挿入時は、最後まできっちり押し込み、
完全に動かなくなるまで挿入してください。